

「かもしれない」の語用論的用法の考察

— 韓国人日本語学習者の習得現状を中心に —

権城*

宋晩翼**

(e-mail : gabana83@hotmail.com • mesong@hanbat.ac.kr)

<目次>

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 序論 | 4. 韓国人日本語学習者に対する調査 |
| 2. 「かもしれない」の先行研究 | 5. 結論 |
| 3. 日本のドラマの台本からの調査 | |

キーワード：従属節(Subordinate clause) 婉曲用法(Periphrasis) 想定(Presupposition) 反論(Rebutter) 擬似的同意(Similar Agreement)

1. 序論

韓国人日本語学習者(以下学習者)が日本語を習う際に難しいと言われている表現の中には推測表現がある。その中にもほとんどの日本語教科書で教えられている「かもしれない」があるが、「可能性を表す表現」という意味の説明だけが中心になっており、「可能性を表す表現」から派生した婉曲用法については説明されていないようである。そこで本稿では「かもしれない」が語用論的な意味の「婉曲」を表す中でも例1)のように「～けど(が)」による従属節の場合を中心に考察することにする。

例1) 「余計なことかもしれないけど、飼育係の一日体験に誘ってみるっていうのは
・・・どうかな？」 (僕が歩く道)

また、「かもしれない」とよく比較されている同じ「～けど(が)」の従属節を用いられる

* 한밭대학교 강사 일본어학

** 한밭대학교 교수 일본어교육

「だろう」についても見てみることにする。従来の研究では二つの形式を推量用法として比較している研究が多いが、語用論的な意味の比較によって婉曲や聞き手に対する配慮の用い方も明らかになるのではないかと思われる。また、このような婉曲用法が韓国語ではどのように翻訳されているかを明らかにし、最後に学習者は婉曲の「かもしれない」を習得しているのかを考察する。

2. 「かもしれない」の先行研究

平田(2001)では、「かもしれない」は「蓋然性の程度の低さ」すなわち「命題(客観的な事柄を表す要素)が真である確かさの程度が低い(益岡, 1991)」ことを意味する、あるいは「命題が真である可能性がある(三宅, 1994)」ことを表現する形式として議論されてきたと言っている。また、仁田(1991)が、「かもしれない」は「だろう」と共に「推し量り」の表現から婉曲的な述べ立ての表現・断言を控えた述べ立てに移り行く傾向にある」と指摘しているように、話し手と聞き手が存在する対話においては、文脈により、意味が派生・拡大して婉曲表現として用いられることが極めて多いとしている。また平田(2001)では、婉曲を「推し量り」から派生・拡大し「婉曲」の意味をもたせることができるとし、『広辞苑』によると、「婉曲」とは、「表現などの遠まわしなさま、露骨にならないように言うさま」で、直接的な、また露骨な表現より、やわらかで丁寧な表現であるとされていると言い、「間接的な表現」と「前置き」と「擬似的な同意」に分けて説明している。その三つの用例と説明は次のようである。

例2) サトル 「柊二、すこしは弱いやつの気持ちもわかってやってよ。」

柊二 「いい話かもしれないけど、納得できないね。まるでわかんねえ」平田(2001:62)

例2)では、「いい話だ」と直接的に言うことも十分可能であるが、間接的に表現することで聞き手に対し丁寧さを示す配慮をしている。

例3) 芙美 「……(略)お邪魔かもしれませんけど、水やなにか、きっと一人じゃ大変でしょう」孝平 「それは、どうも」 (平田2001:62)

前置きの機能をもつ表現としては、このほか「ご存知かもしれませんが」「余計なお世話かもしれませんが」「間違っているかもしれませんが」等々、慣用的な言い回しと言え

るものもある。

例4) 正夫 「おまえ、そんなみみっちいこと言ってねえで……」

杏子 「みみっちいかもしれないけど、それが私の人生だし、それが私のしあわせなんだ……」
(平田2001:62)

例4)のように相手の発言を繰り返す、あたかもそれを認めているようではあるが、それに続けて話し手が主張を展開している。自己主張をする前に、その主張を和らげるためのクッション作用を「かもしれない」に持たせていると言えるのではないだろうか。

以上、(平田2001)では、「かもしれない」は命題に対する確信の低さから「推し量り」としての基本的意味を持つが、そこに話し手の主観を排除し、命題に客観性を持たせる作用を働かせる機能があると考えられると説明している。

黄(2006)では、「かもしれない」の婉曲表現は話者がある事柄に対して断定の言い方で表せるにもかかわらず、その表現の強さを和らげるために、あえて非断定的な言い方を使う表現であると定義づけると説明している。つまり、断定できる事柄に対して、非断定的な表現を使うことによって、文話を丁寧にすることが考えられるのであるとし、想定、反論、擬似的同意、表明回避、評価に分けて説明している。

例5) 「余計なお世話かもしれませんが、もしよろしければ、参考にしてください。」 黄(2006:61)

例5)は話し手が目的発話を述べる前に、相手の感情、感覚や心理状態を想定する表現を前置きとして使う機能の想定である。

例6) 「そういうの、ほかの人には効果あるかもしれないけど、私にはだめよ。ドラマっぽいのと、おもわせぶりなのは苦手なんだから。」
黄(2006:62)

例6)は話し手が目的発話を述べる前に、相手の許容範囲を広げようとするために、わざと否定的な言い方で自分の立場を弱めるという表現を前置きとして使う機能の反論である。

1) 文話とは、「表現主体」が「表現意図」を叶えるための表現上の一まとりのことで、「談話」「文章」の総称である。黄(2006)

例7) 「そうだ。僕らはあれから全く時間がたっていないだ。君があれからいろいろなことをしている間、僕らはずっとあれにかかずにわってた。」

「それはそうかもしれないけど、喉は少なくともいやじゃないし……彼女がどんなひとが知らないけど、私ね、あの小説については忘れていないわ。」 黄(2006:63)

例7)は話し手が目的発話を述べる前に、相手の発話に理解・同意する表現を前置きとして使う機能の擬似的同意である。

例8) 「ね、ちょっとお腹すかない？」 「うんお腹すいたかも」 黄(2006:64)

例8)は自分の感情や感覚を述べる際に、断言するのを避け、わざと不確かな言い方で相手に配慮を示す表現である。

例9) 「ちょっと待って。今山田君が言ったそのアイデア、ちょっとおもしろいかもしれないよ。」 黄(2006:65)

例9)は相手と共用する事柄や現象に対して自分の意見や評価を述べる際に聞き手が主観的な印象を与えないため、言い切るのを避け、不確かな言い方で文話を丁寧にする表現である。

「～けど」による「かもしれない」の婉曲に関する先行研究は数少なく以下の二つほどの先行研究しか見つからなかった。

先行研究のように「かもしれない」の用法には推量以外に婉曲を表す場合があり、その中にも「～けど(が)」による従属節を用いて婉曲を表す場合がある。従来の研究では短文や複文の主節の推量や婉曲を表す場合だけが研究されているが、今回従属節に限っていかなる用法が使われているか調査する。

平田(2001)が説明している三つの場合(「間接的な表現」と「前置き」と「擬似的な同意」)は黄(2006)が説明している「想定」「反論」「擬似的同意」と重なる説明であり、黄(2006)ではこれらの用法以外にも「表明回避」と「評価」を説明している。従って、本稿では、「かもしれない」の婉曲用法についてより詳しく説明している黄(2006)の説明に基づいて婉曲の「かもしれない」を取り扱うことにする。

また、黄(2006)では、「かもしれない」の婉曲用法とは、話者がある事柄に対して断定

の言い方で表せるにもかかわらず、その表現の強さを和らげるために、あえて非断定的な言い方を使う表現であると定義しており、断定できる事柄に対して、非断定的な表現を使うことによって、文話を丁寧にすることが考えられると説明している。本稿でも黄(2006)の定義に従うことにする。

3. 日本のドラマの台本からの調査

日本語の会話文ではどのように使われているのかを見るために日本のドラマの台本(25本)から用例文を取り出し、説明文は除いて会話文だけを考察の対象にした。また、韓国の字幕サイト(『http://gomtv.com』、『http://www.kmplayer.com』)にある翻訳本から韓国語ではどのように翻訳されているのかも見てみた。25本の台本の中「かもしれない」の従属節文は73文で「だろう」の従属節文は24文であった。ちなみに、「かもしれない」が使われている文は全部808文で、「だろう」が使われている文は1839文であった。

3.1 「かもしれない」と「だろう」における「～けど(が)」による用法

3.1.1 「かもしれない」について

「かもしれない」の「～けど(が)」による各用法の数と例文を見てみることにする。

表1 「～かもしれないけど(が)～」についての各用法の数

想定	反論	擬似的同意	表明回避	評価
19文(26%)	44文(60.3%)	10文(13.7%)	0文(0%)	0文(0%)

例10)は想定、例11)と例12)は反論、例13)は擬似的同意の例文である。

例10) 「余計なことかもしれないけど、飼育係の一日体験に誘ってみるっていうのは・・・
 どうかかな？」 (僕が歩く道)

例11) 「先生はね、卒業式には出席、しません。でもね、君たちのことをね、」
 「そんなの嫌だ！！一緒に卒業式に出て下さい！！こういうのっていけないかもしれない
けど、だけどこうするしかなかったんだ！」と玉ちゃん。(結婚できない男)

例12) 「丁度、あいつの借金分だ。それを研次に渡してもらえたら嬉しいんだが。あいつを

あんな風にしたのは、わしのせいだ。今更と言われるかもしれないが、何とかしてやりたい。他に頼む人がいないんだ。」
(僕の妹)

例13) 「それはそうだけど 今日来るとは限らないだろう？」

「そうかもしれないけど、でももし今日動物園に小川先生の知っている女性が現れたとしたらそれが狐の使い番です。」
(鹿男)

3.1.2 「だろう」について

「だろう」の「～けど(が)」による各用法の数と例文を見てみることにする。

表2 「～だろうけど(が)」についての各用法の数

想定	反論	擬似的同意	表明回避	評価
14文(58.3%)	10文(41.7%)	0文(0%)	0文(0%)	0文(0%)

例14)は想定、例15)は反論、例16)は擬似的同意の例文である。

例14) 「こんな電話、迷惑だと思ってるだろうけど、こっちだって仕事なんですから。」
(僕が歩く道)

例15) 「君らは知らんだらうが、40年前、我が高の野球部の一員として、初めて甲子園の土を踏んだんだ。」
(ルーキーズ)

例16) 「つまり・・・だから・・・俺は言ったんだ。色々あるだらうけど、颯を、幸せに出来ないと思ったら、別れろ。傷つける前に別れろって。」
(僕の妹)

3.1.3 結果の分析

推量用法などでは「だろう」がもっと多く使われていたが、従属節文では「かもしれない」が多く使われていることが分かった。これは婉曲を表すには「だろう」より「かもしれない」の方が自然であることを示唆していると考えられる。つまり、話し手は自分の意見などを聞き手に主張したり反論したりする場合には「だろう」より「かもしれない」をよく使う傾向があるとと言える。

また、「かもしれない」文では「反論」が60.3%で一番多く使われており、「だろう」文では「想定」が58.3%で一番多く使われていた。これは、話し手が自分の意見や反論を聞き手に述べるためにわざと否定的な言い方で言う際の婉曲用法では「だろう」より「か

「かもしれない」を使った方が自然であることを表している。「だろう」文では「擬似的同意」が一つの文も使われていなかったが、これは「だろう」には「相手の意見を認めていると見せかけるような効果」は「かもしれない」よりは少ないのではないかと考えられる。そして、二つの形式の文共に「表明回避」と「評価」の文は使われていなかったが、これらの用法は従属節ではなく文末形式だけ現れているようである。

3.2 韓国語の翻訳との比較

3.2.1 「かもしれない」と「だろう」の韓国語の翻訳形式

「かもしれない」と「だろう」の用例文が韓国語ではどのような形式で翻訳されているのかをみることにする

表3 「かもしれない」と「だろう」の文に使われている韓国語の形式と数

	지도 모르다	ㄹ	断定
かもしれない(73文)	54文(73.9%)	13文(17.8%)	6文(8.2%)
だろう(24文)	0文(0%)	22文(91.6%)	2文(8.3%)

「だろう」は殆んど「ㄹ」で翻訳されているが、「かもしれない」は「ㄹ」や「断定」で翻訳されている文も見られ、日本語の「かもしれない」と韓国語の「지도 모르다」の使用にずれがあると考えられる。

3.2.2 用法別韓国語の翻訳形式

以下は「かもしれない」と「だろう」の各用法において翻訳されている韓国語の形式を表している表である。

表4 「かもしれない」の各用法における韓国語の形式

用法	지도 모르다	ㄹ	断定	計
想定	17文(23.2%)	2文(2.7%)	0文(0%)	19文(26%)
反論	30文(41%)	11文(15%)	3文(4.1%)	44文(60.3%)
擬似的同意	7文(9.5%)	0文(0%)	3文(4.1%)	10文(13.7%)
計	54文(74%)	13文(17.8%)	6文(8.2%)	73文(100%)

表5 「だろう」の各用法における韓国語の形式

用法	지도 모르다	졌	断定	計
想定	0文(0%)	13文(54.1%)	1文(4.1%)	14文(58.3%)
反論	0文(0%)	9文(37.5%)	1文(4.1%)	10文(41.7%)
擬似的同意	0文(0%)	0文(0%)	0文(0%)	0文(0%)
計	0文(0%)	22文(91.7%)	2文(8.3%)	24文(100%)

3.2.3 結果の分析

「かもしれない」文では「지도 모르다」が74%で一番多く使われていたが、「だろう」に対応していると考えられる「졌」が17.8%、「断定」が8.2%使われている。「かもしれない」は「지도 모르다」に対応していると考えられるが、「～けど(が)」による従属節の翻訳では「졌」や「断定」にも対応している。また、「だろう」文でも8.3%であるが、「断言」の形式も使われていた。

例17) 「これは俺が頭の中で作り上げた妄想だって思ってるんだろう。でもそうじゃないんだ。君には見えていないかもしれないけど、俺の顔は鹿になっている！」
너는 안 보이겠지만, 지금 내 얼굴은 사슴이 되었어. (鹿男)

例17)では「かもしれない」が使われているが、韓国語では「지도 모르다」ではなく「だろう」に対応していると考えられる「졌」が使われていた。3.2.2でも見たように「かもしれない」文では「졌」が17.8%使われていた。日本語では「かもしれない」のように確信度が低い表現を使って婉曲を表しているが、韓国語では日本語よりは確信度が高い「졌」を使って婉曲を表す場合もあった。「かもしれない」は「지도 모르다」だけでなく「졌」にも対応しているということである。

例18) 「それはそうだけど、今日来るとは限らないだろう？」 「そうかもしれないけど、でももし今日動物園に小川先生の知っている女性が現れたとしたらそれが狐の使い番です。」
그렇긴 해도, 만약 오늘 동물원에서 오가와 선생님이 아는 여자가 나타난다면 그 사람이 바로 여우의 사자예요. (鹿男)

例18)では「かもしれない」が使われているが、韓国語では断定をしている。「かもしれ

ない」文ではほとんど「지도 모르다」が使われていたが、断定も6文で8.2%使われていた。同じ場面でも日本語では確信度が低い「かもしれない」を使っているのに対して、韓国語では断定をしている。例17)と例18)で見たように日本語では「かもしれない」を使っているところに韓国語では「ㄹ」や「断定」が使われていた。同じ場面でも推測表現を使うところでも韓国語は日本語より確信度が高い表現を使う場合がある。

例19) 「お母さんがさ、最近毎日のようにうちに来るんだよ。同居したいのかな。確かに一人は寂しいだろうけど、どうしたもんだろう。」

분명히 혼자계시면 쓸쓸 하지만, 왜 그리신 걸까? (結婚できない男)

「だろう」文はほとんど「ㄹ」が使われていたが、8.3%が断定になっている。

例19)では「確かに」という副詞が使われて断定をしてもいいようである。しかし、このような場合でも日本語では「だろう」が使われ、韓国語では断定が使われている。日本語は婉曲を表すために推測表現を使っていると考えられるが、韓国語は単なる話し手の根拠による判断を表しているのではないかと思われる。また、「だろう」文は91.7%「ㄹ」が使われているところを見ると、やはり「だろう」は「ㄹ」に対応している。

「かもしれない」文では「ㄹ」と「断定」が26%「だろう」文では「断定」が8.3%現れ、同じ婉曲を表す場面でも韓国語は日本語より確信度が高い形式を使う場合がある。これは、韓国語は日本語より婉曲を表す傾向がないことを示唆している。つまり、推測表現を婉曲表現として使っているのではなく、話し手の推量の表現としてだけ使っているようである。

4. 韓国人日本語学習者に対する調査

4.1 調査の概要と結果

3.1.3で分かったように「かもしれない」は推量以外にも婉曲を表すのに使用されている。学習者はこのような使い方を習得しているのかを見るために日本語を専攻としており、「だろう」と「かもしれない」を習ったことがある大学生20名を対象にして調査を行った。「かもしれない」の「～けど」による従属節の文15文(想定5文、反論5文、擬似的同意5文)を提

示して「かもしれない」が使用されている部分を空欄にした。そして空欄に「かもしれない」と「だろう」の中で一つを選んで書いてくださいと指示した。推測表現を使う必要がないと判断した場合には空欄のままにしてくださいと指示した。以下は調査文と学習者が選んだ形式の表である。

4.1.1 「想定」について

以下は「想定」の調査文であり、その結果は表 6 である。

調査文 1)

園長と古賀が並んで食事をする。

園長「ねー古賀さん。大竹さん見ると息子さんに会いたくない？」

古賀「……ずっと、そのことを考えています。一度別れた女房に会ってみようと思っています。息子に会わせてほしいって。」

園長「……息子さんの自閉症って……重い？」

古賀「大竹さんと同じくらいなんじゃないかと思います。」

園長「余計なことかもしれないけど、飼育係の一日体験に誘ってみるっていうのは……
どうかな？」「あ、ごめん。余計なことを言って。」 (僕の歩く道)

調査文 2)

「それをいつも感じていて……それをいつか消し去りたいって」

「信じられません。」

「改心すれば、過去の罪は許されるものなんだろうか。私は、決して許しはしない。あの男の心の砕ける音を聞くまでは、たとえ、医師のモラルに反する行為で君を、脅してもだ。」

汐見家「私ね、父ちゃんと美桜ちゃんが、結婚するっていいなーって思うの。」

「あら、気が早いわね。」と桂子。

「母ちゃんもしかししたら嫌がるかもしれないけど、私はそうなるっていいなーって。」

(薔薇のない花屋)

調査文 3)

佐久間が真由美の店を訪ねていく。

真由「あなた……」

若頭「先日は、失礼いたしました。」

真由 「もうお店終わりましたけど。」

若頭 「星貴志さんと、親しい間柄だったんですね。」

真由 「・・・はい。」

若頭 「ヘロインのこと、何か知りませんか？」

真由 「疑っているの？私を。」手に何かを隠す真由美。

若頭 「焦ってるんです。カタギの方にこんなことを言うのは、筋違いかもしれないが、先日、ヘロインがらみで組員一人が殺されました。それに今一人、人質に取られています。」
(セラー服と機関銃)

調査文 4)

「あなたの本当の狙いはこれだったんですか？」新聞を手に鉄平が言う。

『阪神 (9 位) 大同銀 (5 位) 合併へ預金高第三位大銀行誕生』鉄平が新聞を投げ捨てる。「あまりに汚いやり口じゃありませんか！恥ずかしいと思わないんですか！？」

「そんなことを言う為になんか来たのか。お前は正しいことを言っているつもりかもしれないが、私も運営者として間違ったことをしたつもりはない。それだけだ。」 (華麗な一族)

調査文 5)

「1番、レフト新庄。2番、セカンド関川。3番、ライト今岡。4番、サード平塚。5番、ファースト湯舟。6番、センター岡田。7番、キャッチャー御子柴。8番、ショート松山。9番、ピッチャー・・・安仁屋。以上！今日の目黒川戦は、このオーダーで臨む！」若菜は控え選手だった。松山が心配そうに若菜を見つめる。

「安仁屋が9番・・・。」と関川。

「なんともねーって言っただろ・・・。」と安仁屋。

「俺は俺なりに、今のニコガクの戦力を最大限発揮できるオーダーを組んだつもりだ。みんな聞いてくれ。怪我人が出たこと、もう現実としてしょうがない。それに、俺のバカな行動が、お前たちをかえって追い込んでしまったことも事実だ。」

「・・・」

「こんな俺が言う立場じゃないかもしれないが・・・俺たちには、もう後がない！」(ルキーズ)

調査文 1)から5)までは「想定」の用法で黄(2006)は、自己の表現や相手への働き掛けを行う際に、事前に想定 of 心理状態を提示することによって聞き手の「共感領域」拡大

を促し、相手が自分の話を受け入れやすい環境を作る一つ的手段であると考えられると説明している。五つの調査文をまとめると、以下のようである。

表 6 想定 of 調査文の結果のまとめ

	かもしれない	だろう	断定	合計
調査文1)	12(60%)	8(40%)	0(0%)	20(100%)
調査文2)	14(70%)	6(30%)	0(0%)	20(100%)
調査文3)	18(90%)	2(10%)	0(0%)	20(100%)
調査文4)	13(65%)	7(35%)	0(0%)	20(100%)
調査文5)	7(35%)	7(35%)	6(30%)	20(100%)
計	64(64%)	30(30%)	6(6%)	100(100%)

「想定」の文を見ると、全体的に「かもしれない」に比べ、「だろう」が使われていないことが分かる(「かもしれない」64%、「だろう」30%)。ごとに、調査文3)の「勘違い」には「かもしれない」を選択した学習者が90%である。これは学習者のユニット形成のストラテジが働いているからであろう。また、「だろう」は30%(延べ30名)「断定」は6%(延べ6名)になっている。断定の場合調査文5)にだけ現れている。調査文5)は「こんな俺が言う立場じゃないかもしれないが、俺たちにはもう後がない」という文であり、自分のことについて言う場合なので学習者は「断定」を選択したのではないと思われる。ネイティブスピーカーの何人かに聞いてみたところ「だろう」と「断定」は適切ではないと言う。今後の検討の対象にしたい。

4.1.2 「反論」について

以下は「反論」の調査文であり、その結果は表7である。

調査文6)

「先生はね、卒業式には出席、しません。でもね、君たちのことをね、」

「そんなの嫌だ！！一緒に卒業式に出て下さい！！こういうのっていけないかもしれないけど、だけどこうするしかなかったんだ！」と玉ちゃん。

「ごめんね、先生。仕方がないの。」と千尋。 (結婚できない男)

調査文7)

「これ食っていいよ。おれたこ嫌いだから。」

「え？私も。けど、たこ焼きのやきは好きなのよね。」

「あのう、甘辛いソースの味と熱々ふわふわの感じ？」

「おれも。」

「本当？」

「だから俺と一緒にたこ焼きを食いやつはたこは二倍食えて得するなのよね。」

「ね、なんでたこなしやきって売ってないんだろう。」

「おじさんにたこなし焼きやいてって頼んでも絶対作ってくれないのよね。」

「これまでいた？焼いてくれたおじさん。」

「いない。」

「でしょう。いたらいいのに。たこ焼きやさんの意地も大切かも知れないけど、私だったら焼いてあげる。」

(東京湾景)

調査文8)

「何が長男よ！私は、ただ主任が可愛そうだったって言いたかっただけ。あんたを信じて、あんたが来るのをじっと待ってたのよ。主任！仕事も大事かもしれないけど、そこまで思ってくれる人の方がもっと大切なんじゃないの？そんな女の人を悲しませて他に何が大事だっていいのよ！」

(ブラザフィット)

調査文9)

「俺の今の気持ち、言っていていいか？ずっと先のことなんて、わかんない。けど、今の気持ちなら、100%嘘が無いって、自信持って言える。俺、お前が話すなら、どんなにゆっくりでもちゃんと聞く。電話で話せないなら、こうやって直接会いに来る。俺イルカじゃないし、お前もイルカじゃないし。お前が歩くなら、どんなにゆっくりでも、一緒に歩く。今は、頼りにならないかもしれないけど、いつか、お前の役に立ちたい。昔みたいになかなくても、そういう気持ちでつながっているから、住む世界が違うとは思わない。」

(1リットルの涙)

調査文10)

黒崎はくらの家にお金を届けにやって来た。

「情報料の3千万だ。」

「わたしゃ要らないよ。は一あ。あんた、本物かい？それとも、インチキかい？」

「どっちでもいいよ。くらさんの好きな方をやってやる。あんたが信じたのは、それ程度のもんだ。」

「気持ちがいいだろうね。インチキ暴いて。」

「・・・ダンナさんが残した3千万、定期にしてあったからわかんなかったかもしれないけど、これって何十年もかけて、コツコツ貯金したものなんだよ。」

「うちのお父さんが？」

「3千円とか5千円とか、細かい入金が多いでしょ。」 (クロサギ)

調査文6)から調査文10)までは「反論」の用法で黄(2006)は、自分の発話に対する理解を求める際に、否定的な内容を提示することによって、聞き手の「共感領域」拡大を促し、相手が自分の話を受け入れやすい環境を作る一つ的手段であると考えられると説明している。五つの調査文をまとめると、以下のようである。

表 7 反論の調査文の結果のまとめ

	かもしれない	だろう	断定	合計
調査文6)	9(45%)	9(45%)	2(10%)	20(100%)
調査文7)	9(45%)	8(40%)	3(15%)	20(100%)
調査文8)	7(35%)	9(45%)	4(20%)	20(100%)
調査文9)	8(40%)	9(45%)	3(15%)	20(100%)
調査文10)	10(50%)	10(50%)	0(0%)	20(100%)
計	43(43%)	45(45%)	12(12%)	100(100%)

「反論」では「かもしれない」と「だろう」の選択率がほぼ同じぐらいである(「かもしれない」43%、「だろう」45%)。「想定」の文に比べ「だろう」が使われやすい文であるという結果である。それでネイティブスピーカーの何人かに聞いてみたところ、両方とも自然であるという互換性が確かめられた。

4.1.3 「擬似的同意」について

以下は「擬似的同意」の調査文であり、その結果は表 8 である。

調査文 11)

高級レストラン

「美味しい！」と聰子。

「すみませんメニューの試食なんかさせて。」と高文。

「ねえこれちょっとスパイス過ぎない？」と奈央。

「奈央にはそうかもしれないけど、今の客には受けるんだよ。」

「ふん。」

(アラウンド 40)

調査文 12)

「あー！恋愛に進まないんだとしたら、多分ネックがあるからですよ。例えば、他に気になる女性がいたら？」

「え！？」

「雫の担任のあの先生って、相当いい線いってるんですよ。教師にしとくのもったいなーい！ってくらい。スタイルバツグンで。」

「そんな人いたの・・・」

「しょっちゅう見かけるんですよ。アニキのこと訪ねてきて。雫の担任っていうにしちゃ・・・多すぎるなー。」

「彼のほうは？」

「そりゃ、あんないい女ですから。（美桜をジロジロ見て）うわー、もしそうなら勝ち目ねーなー！性格も素直で、明るいしなー。」

「あんたにとってはそうかもしれないけど、タイプというものがあるの、人それぞれ！」

(薔薇のない花屋)

調査文 13)

<裁判前にあれこれ>

雨「急患記録半年分も調べて、意味あるんでしょうか」

く「ないかもしれないけど。やれることは全部やっておかないとね」

その夜は徹夜!あつあつ!と何か食べながら呼んでるくりゅたん。お好み焼きか?たこ焼き?

(ヒーロー)

調査文14)

「狐の使い番も動物園に来ます。目を渡してからだいぶつのに地震はいっこうに治まってないし神無月の終りが近づいて使いも不安になっているはずでしょう?だから必ず狐に会いにやってきます。」

「それはそうだけど、今日来るとは限らないだろう?」

「そうかもしれないけど、でももし今日動物園に小川先生の知っている女性が現れたとしたらそれが狐の使い番です。」

(鹿男)

調査文15)

リングを 2 cm の幅に切るよう頼まれた輝明。そしてまた都古は三浦に呼ばれる。行ってみると、輝明は定規を使い、2 cm きちんと計りながらリングを切っていた。

三浦 「こうやって全部 2 cm の幅で切ってください。」

三浦 「松田先生、何であなの？」

都古 「2cm に切るようにいいました？」

三浦 「え？ 言ったかもしれないけど、大体 2cm っていう意味で言ったに決まってるじゃん？」

(僕の歩く道)

調査文11)から調査文15)までは「擬似的同意」の用法で黄(2006)は、自分の発話に対する理解を求める際に、クッションとして用い、相手への理解や同意を表すことによって、聞き手との「共感領域」を広げ、相手が自分の話を受け入れやすい環境を作る一つの手段であると考えられると説明している。五つの調査文をまとめると、以下のようである。

表 8 擬似的同意の調査文の結果のまとめ

	かもしれない	だろう	断定	合計
調査文11)	4(20%)	9(45%)	7(35%)	20(100%)
調査文12)	4(20%)	11(55%)	5(25%)	20(100%)
調査文13)	2(10%)	12(60%)	6(30%)	20(100%)
調査文14)	4(20%)	11(55%)	5(25%)	20(100%)
調査文15)	3(15%)	11(55%)	6(30%)	20(100%)
計	17(17%)	54(54%)	29(29%)	100(100%)

「擬似的同意」では「だろう」が54%(延べ54名)「断定」が29%(延べ29名)になっている。その反面「かもしれない」は17%(延べ17名)で低くなっている。とても目につく結果である。ドラマの台本の調査では「だろう」文では「擬似的同意」が一つの文も見つからなかった。というのは日本人は、相手の意見を認めていると見せかけようとするときに「だろう」よりは「かもしれない」を使用するからである。しかし、学習者は「だろう」と「断定」を選択している。

4.2 結果の分析

以上、調査した結果をまとめると以下の表 9 のようになる。

表9 全体の結果のまとめ

	かもしれない	だろう	断定	計
想定 of 調査文	64(64%)	30(30%)	6(6%)	100(100%)
反論 of 調査文	43(43%)	45(45%)	12(12%)	100(100%)
擬似的同意 of 調査文	17(17%)	54(54%)	29(29%)	100(100%)
計	124(41.3%)	129(43%)	47(15.7%)	300(100%)

「想定」の文は「だろう」が使われにくい文であり、「かもしれない」が自然であるが、「だろう」が30%(延べ30名)いた。「反論」と「擬似的同意」の文を見ると、「想定」より「だろう」や「断定」の割合が高い。「反論」の場合「だろう」が45%(延べ45名)で「かもしれない」の43%(延べ43名)とほぼ同じである。互いの互換性が見られている。「擬似的同意」は「かもしれない」が自然であるが、「だろう」が54%(延べ54名)「断定」が29%(延べ29名)もある。相手の意見を認めていると見せかけて婉曲を表す場合で日本人は「だろう」の使用も避けて「かもしれない」を使っているが、学習者は「だろう」や「断定」を選択している。このことをみると、日本人は聞き手を配慮する傾向があるのに対して韓国人は自己中心的に発話する傾向があると考えられる。「擬似的同意」は言語生活の差を見ることができ表現ではないかと思われる。

5. 結論

本研究では「かもしれない」と「だろう」が「～けど(が)」による従属節を用いて婉曲を表す場合を考察してみた。その結果、「かもしれない」が「だろう」より多く使われていた。これは二つの形式は同じ推測を表す形式であるが、婉曲用法として使用される場合には「かもしれない」が「だろう」より自然であることを示唆している。

また、「かもしれない」は「反論」の使い方、つまり自分の意見を聞き手に述べる際に聞き手が自分の話を受け入れやすい環境を作るための用い方が多く使われている。話し手が聞き手に自分の意見を言う場合には確信度が低い「かもしれない」を使った方が婉曲を表すのに自然であるようである。一方、「だろう」文では「かもしれない」文と違って「擬似的同意」が一つの文も使われていない。聞き手の意見に同意しているように見せかけよう

とすることは「だろう」より確信度が低い「かもしれない」を使った方が自然であると考えられる。

また、「かもしれない」と「だろう」の「～けど(が)」による従属節の文では黄(2006)で述べている「表明回避」と「評価」の用法は見られなかった。話し手が相手の発話をフォローしたり、自分の意見を客観的に見せたりするときは「～けど(が)」による従属節を用いなくても推測表現だけ使って婉曲を表すことができる。このような場合は文末に現れることが多い。

翻訳されている韓国語の形式は「かもしれない」文では「지도 모르다」以外の「ㄷ」や「断定」が現れ、「だろう」文でも「ㄷ」以外に「断定」が現れた。韓国語では日本語の形式より確信度が高いと考えられる形式が使われていた。これは、韓国語は日本語より婉曲を表す傾向がないと言える。

また、学習者は婉曲の「かもしれない」を習得しているのかを見るために調査を行った。その結果日本人は「かもしれない」を使用しているところに学習者は「だろう」や「断定」を選択していた。このことを見ると、学習者は婉曲の「かもしれない」が習得されていないと言え、「かもしれない」を婉曲表現ではなく、推測表現としてだけ捉えているようである。

本研究の調査や結果から見たように、日本語の推測表現を学習する際に推測用法だけでなく、語用論的な意味が出てくる場合まで理解しておく日本語の推測表現を習得するのに役に立つと考えられる。

今回は韓国語の「지도 모르다」と「ㄷ」の用法について考察し、対照研究を行うことまでは出来なかったが、今回の研究は学習者の習得を中心とした研究であるため韓国語の形式についての考察は今後研究を行うことにする。

そして今後は日本語の二つの形式が「～けど(が)」による従属節で使われている場合、その文脈の内容がどのように異なるのかを考察し、韓国語の各形式の本質を分析して日本語とはどのように異なっているのかを考察していきたい。

【参考文献】

- 大鹿薫久(1992)「『かもしれない』と『にちがいない』—叙法的な意味の一端—」『ことばとことのは』9号 pp.127-134
- 加藤麻衣子(2010)「韓国高等学校日本語教科書における語用論的考察」啓明大学学校教育大学院修士学位論文 pp.86-89

- 木下りか(1997) 「カモシレナイ・ニチガイナイー真偽判断のモダリティの体系における「可能性」一」 『ことばの科学』 10号 pp.41-56
- 金良宣(2004) 「現代日本語における「かもしれない」の意味分析」 『日本学報』 58号 pp.39-54
- 黄钰涵(2006) 「「かもしれない」の婉曲表現としての機能分類について」 『日本語教育研究51号』 pp.59-67 早稲田大学日本語研究教育センター
- 新村出編(1998) 『広辞苑 第五版』 岩波書店
- 寺村秀夫(1984) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』 くろしお出版
- 野田尚史(1984) 「～にちがいない/～かもしれない/～はずだ」 『日本語学』 3-10 pp.111-119
- 平田真美(2001) 「「カモシレナイ」の意味—モダリティと語用論の接点を探る—」 『日本語教育』 108号 pp.60-68 日本語教育学会

【用例の出典】

「アラウンド40」「アンフェア」「1リットルの涙」「エンジン」「華麗な一族」「ガリレオ」「クロサギ」「結婚できない男」「鹿男」「スマイル」「セラー服と機関銃」「チェンジ」「東京湾景」「眠れる森」「のだめカンタービレ」「薔薇のない花屋」「パパとムスメの7日間」「ヒーロー」「ブラザフィット」「プロポーズ大作戦」「僕の歩く道」「僕の妹」「ラストフレンド」「離婚弁護士2」「ルキーズ」

【用例の出典サイト】

<http://gomtv.com>
<http://www.dramanote.com>
<http://www.kmplayer.com>

논문 투고 일자 : 2015. 12. 30
논문 심사 일자 : 2016. 1. 31
게재 확정 일자 : 2016. 2. 4

 < 要 旨 >

「かもしれない」の語用論的用法の考察

- 韓国人日本語学習者の習得現状を中心に -

権城・宋晩翼

韓国人日本語学習者が日本語を学習する際に難しいと言われている表現の中に推測表現がある。その中に主観的な表現の「だろう」と可能性を表す表現の「かもしれない」があるが、一方で「～けど(が)」による従属節を使用して婉曲を表す場合がある。それでこの用法が日本語ではどのように使用され、韓国語ではどの形式で翻訳されるのかを考察した。また、学習者はこの用法が習得しているのかを調査した。日本語の二つの形式「だろう」と「かもしれない」は日本のドラマの台本から「～けど(が)」による従属節文を全て全部取り出して考察を行った。その結果従属節文では「だろう」より「かもしれない」が多く使用され、婉曲用法では「だろう」より「かもしれない」を使用した方が自然であることが分かった。学習者に対する調査をみると、日本人は「かもしれない」を使用しているところで学習者は「だろう」や「断定」を選択している。このように「かもしれない」には推測用法以外にも婉曲を表す用法があり、学習者が推測表現を習う際に推測用法だけでなく語用論的な意味が出てくる場合まで理解しておく、推測表現がより深く理解でき、使用するのに役に立つと考えられる。

 A Study on Pragmatic Usage of 「かもしれない(Kamosirenai)」 In Priority
 Status of Learning of Korean Japanese Learner

Kwon, Seong • Song, Man-Eek

Among expressions that Korean learners of Japanese have difficulty with are speculative expressions. Speculative expressions have 「だろう(darou)」 for subjective expression and 「かもしれない(kamosirenai)」 for possibility, and these are sometimes expressed in terms of subordinate clause with 「～けど(kedo)(が(ga))」 to convey euphemism. So this paper examined how this pattern of expression is used in Japanese and how it is translated into Korean. This paper also examined whether the learners are well acquainted with the expression. All the sentences with subordinate clauses by means of 「～けど(kedo)(が(ga))」 in the drama scripts of Japan selected were excerpted to examine the two forms in Japanese, 「だろう (darou)」 and 「かもしれない (kamosirenai)」. The results show that in sentences with subordinate clauses, 「かもしれない (kamosirenai)」 was used more frequently than 「だろう(darou)」, which indicates that it is more natural in periphrasis to use 「かもしれない (kamosirenai)」 than 「だろう (darou)」. As for the result of the survey on the learners, the learners chose 「だろう (darou)」 or conclusive expression for 「かもしれない (kamosirenai)」 used by Japanese people.

Besides its speculative usage, 「かもしれない (kamosirenai)」 is also used to express periphrasis. So when the learners learn speculative expressions, it would be helpful for deeper understanding and use of speculative expressions to comprehend cases not only of speculative usage but also of pragmatics.